

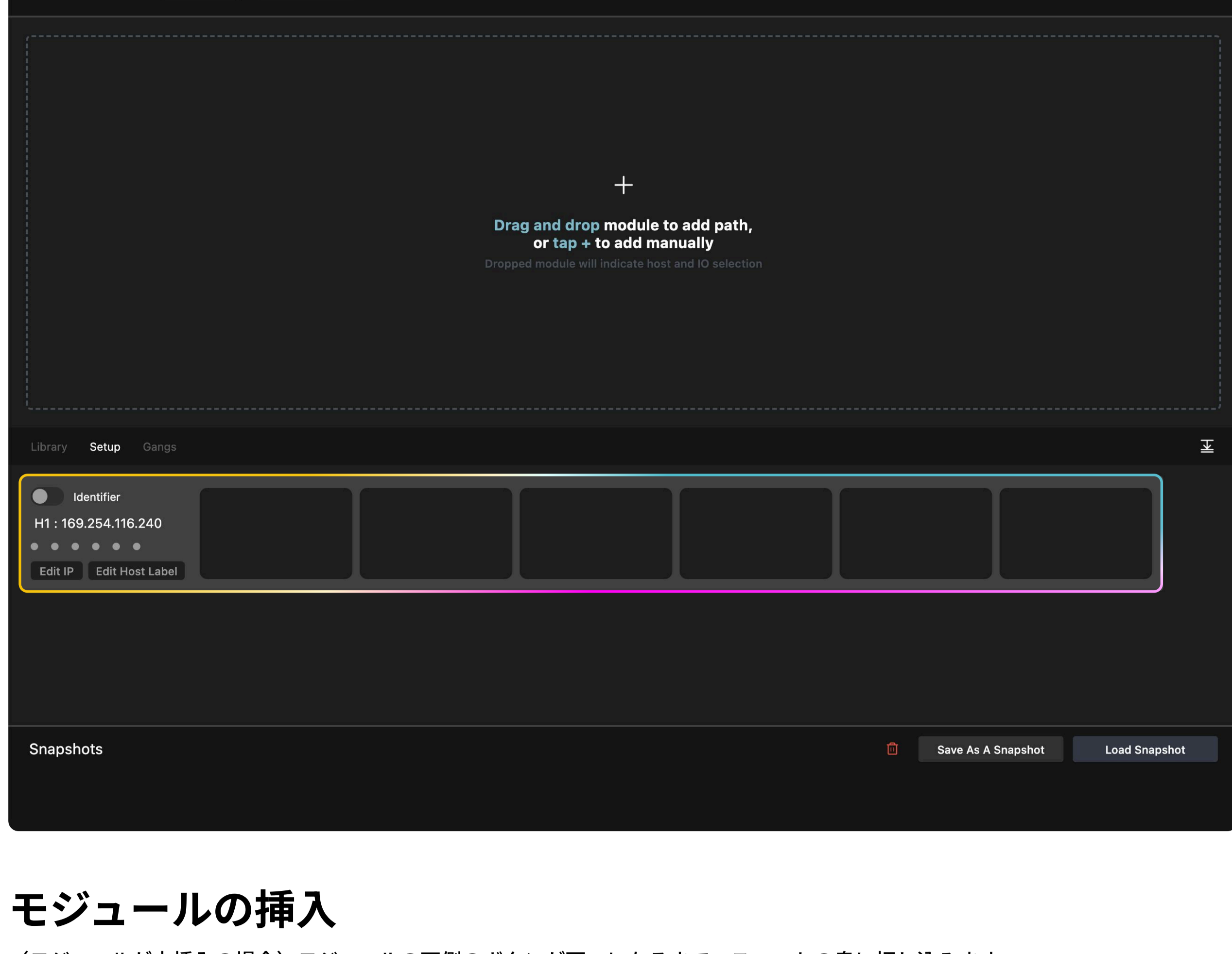
SEPIA クイックスタートガイド

L6 ホストの接続

IEC 電源ケーブルを接続し、電源をオンにします。システムの初期化には約 1 分程要し、複数回リレーのクリック音が鳴ります。

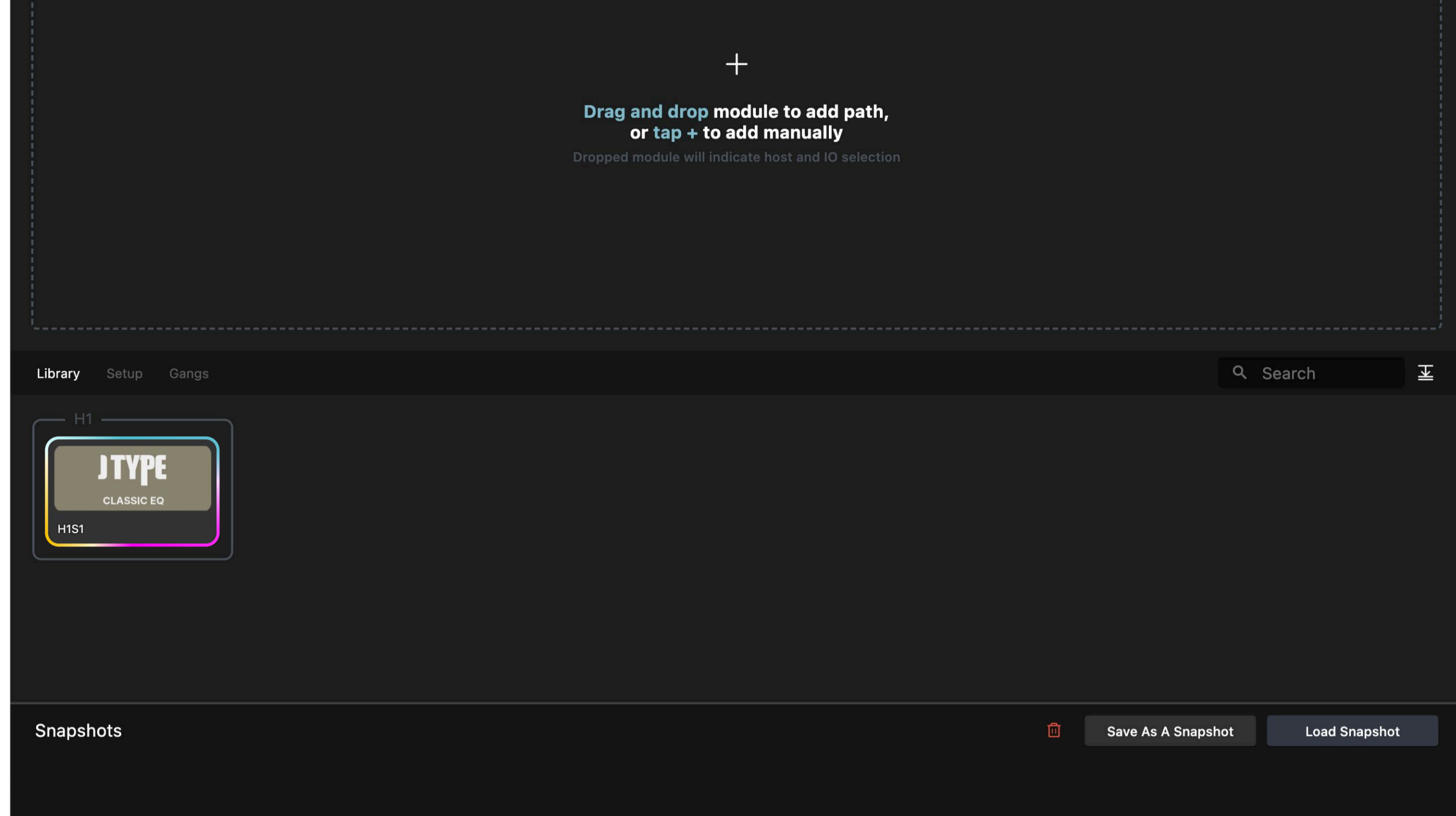
ネットワーク設定

Ethernet (Cat5) を通してホストをネットワークまたはコンピューターへ接続します。デバイスで SEPIA Client / Plugin を起動すると、Setup タブに L6 ホストが表示されます。



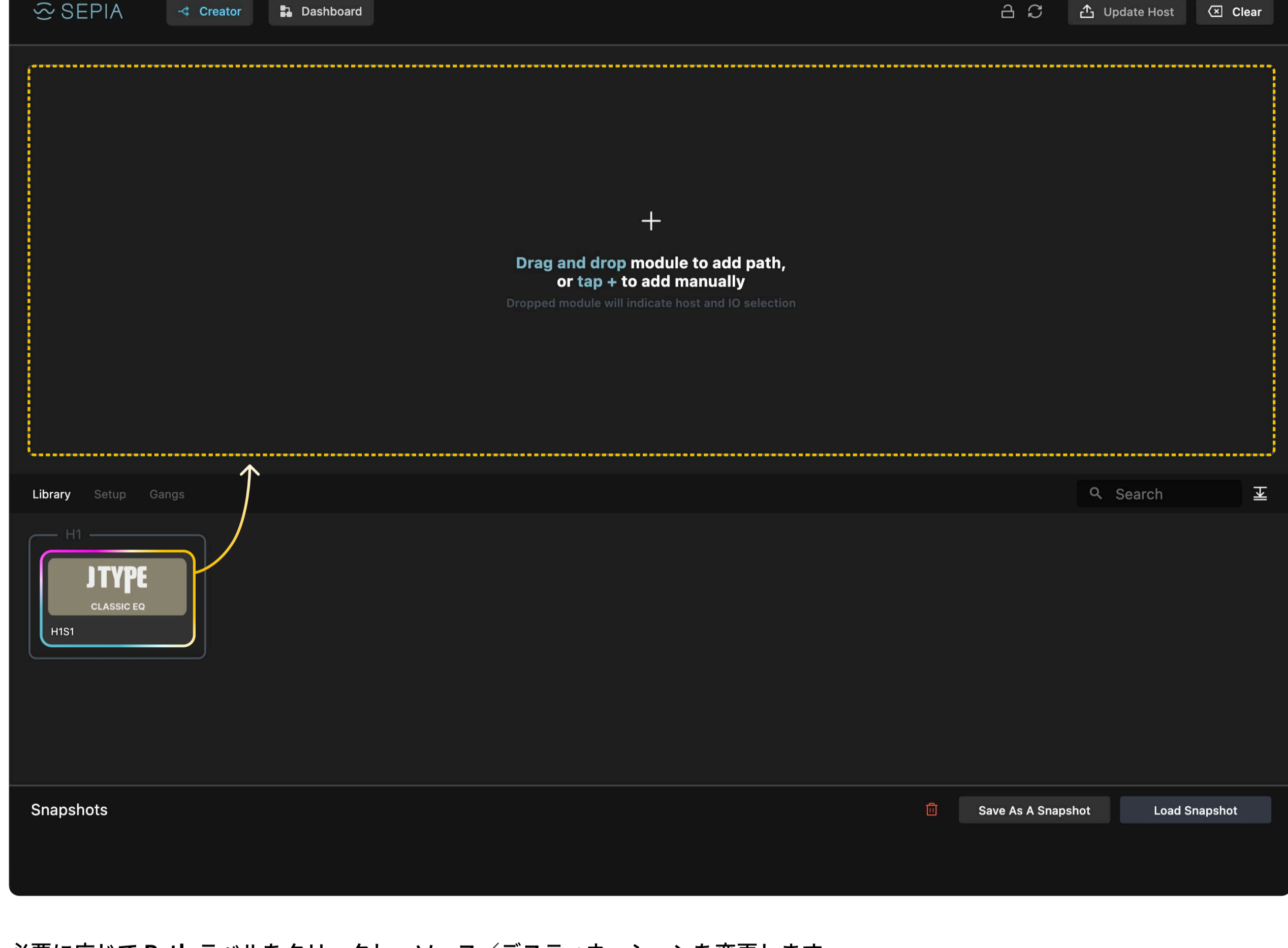
モジュールの挿入

(モジュールが未挿入の場合) モジュールの両側のボタンが画一になるまで、スロットの奥に押し込みます。約 20 秒以内に Library タブが表示されます。

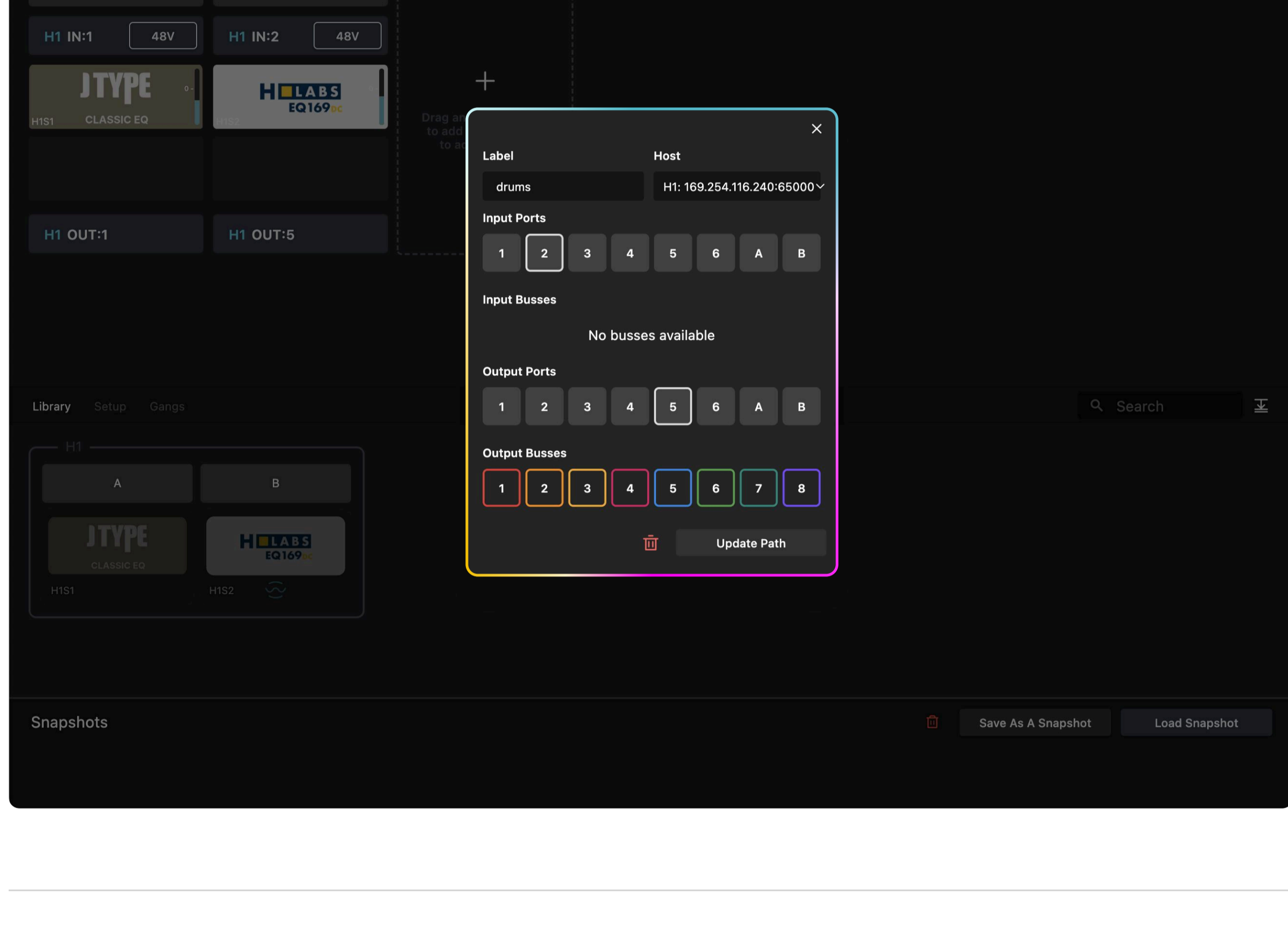


パスの作成

モジュールを Creator にドラッグ＆ドロップすると、自動的にパスが作成されます。



必要に応じて Path ラベルをクリックし、ソース/デスティネーションを変更します。ルーティング変更後、Update Host ボタンが青く表示されるので、クリックして変更を反映します。



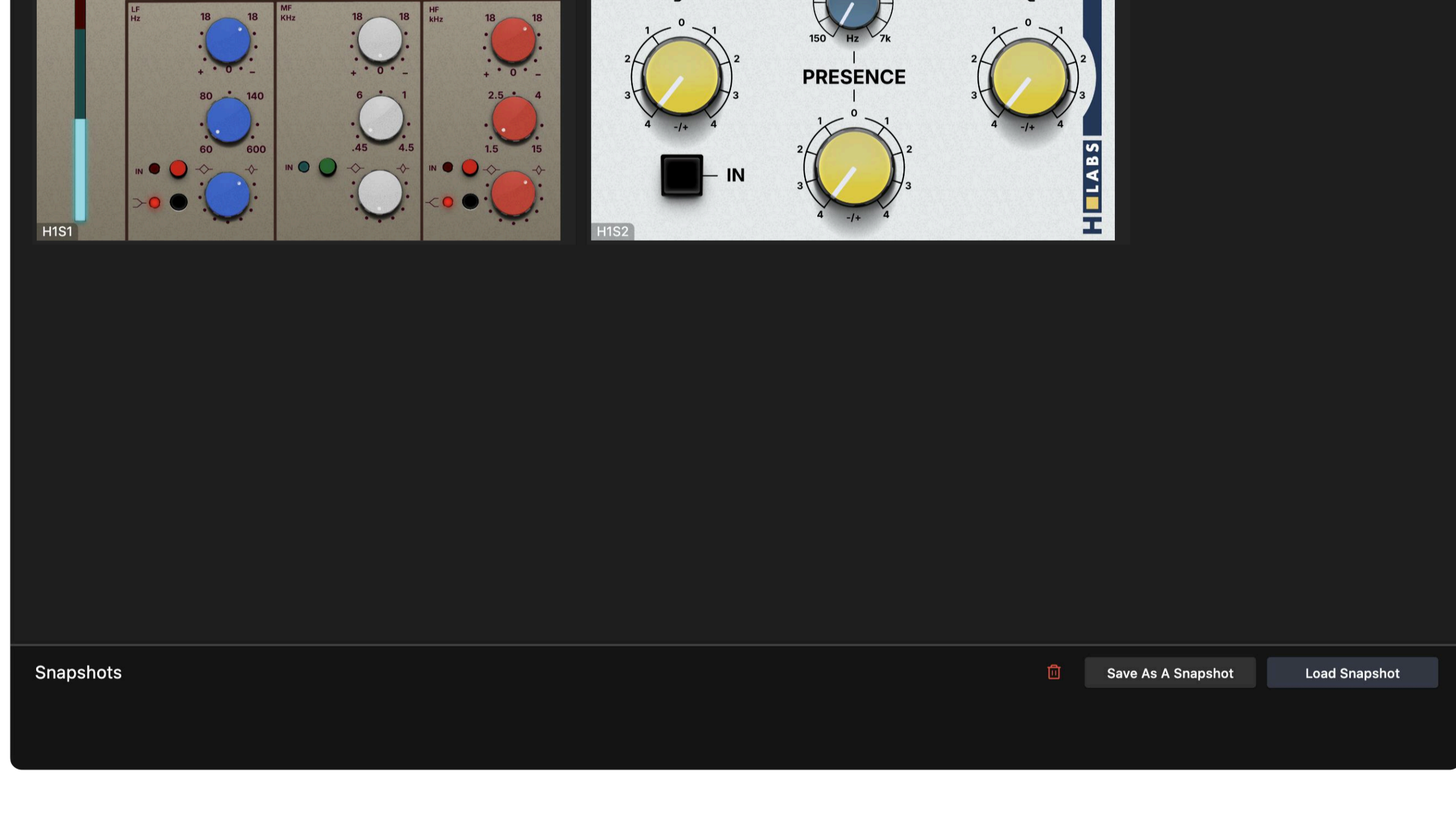
使用可能な I/O

- XLR 入力 × 6 (スロット 1~6 に直結され変更不可)
- 割り当て可能 TRS AUX 入力 × 2
- A1 アナログオプションカード：割り当て可能アナログ出力 × 8
- N1 Dante/AVB オプションカード：割り当て可能デジタル入出力 × 8
- 内部バス (複数)



Dashboard 画面

- 信号チェーン全体を制御できます
- グローバルメーター表示
- ルーティングを変えずに、をドラッグしてチェーン順を並べ替えます
- 右上の [S] [M] [L] で表示サイズを選択できます
- を使ってバスを展開すると、特定のバスにフォーカスできます。



モジュール設定の調整

Dashboard のバス、または Creator でモジュールをクリックして設定を開きます。オーディオを通すために、モジュールのバス内の配置が必要です。

パラメータ変更は即時反映されますが、ルーティング変更後は必ず Update Host を選択します。



セットアップの保存／呼び出し (スナップショット)

Save As A Snapshot を押して保存し、スナップショット各をクリックして呼び出します。

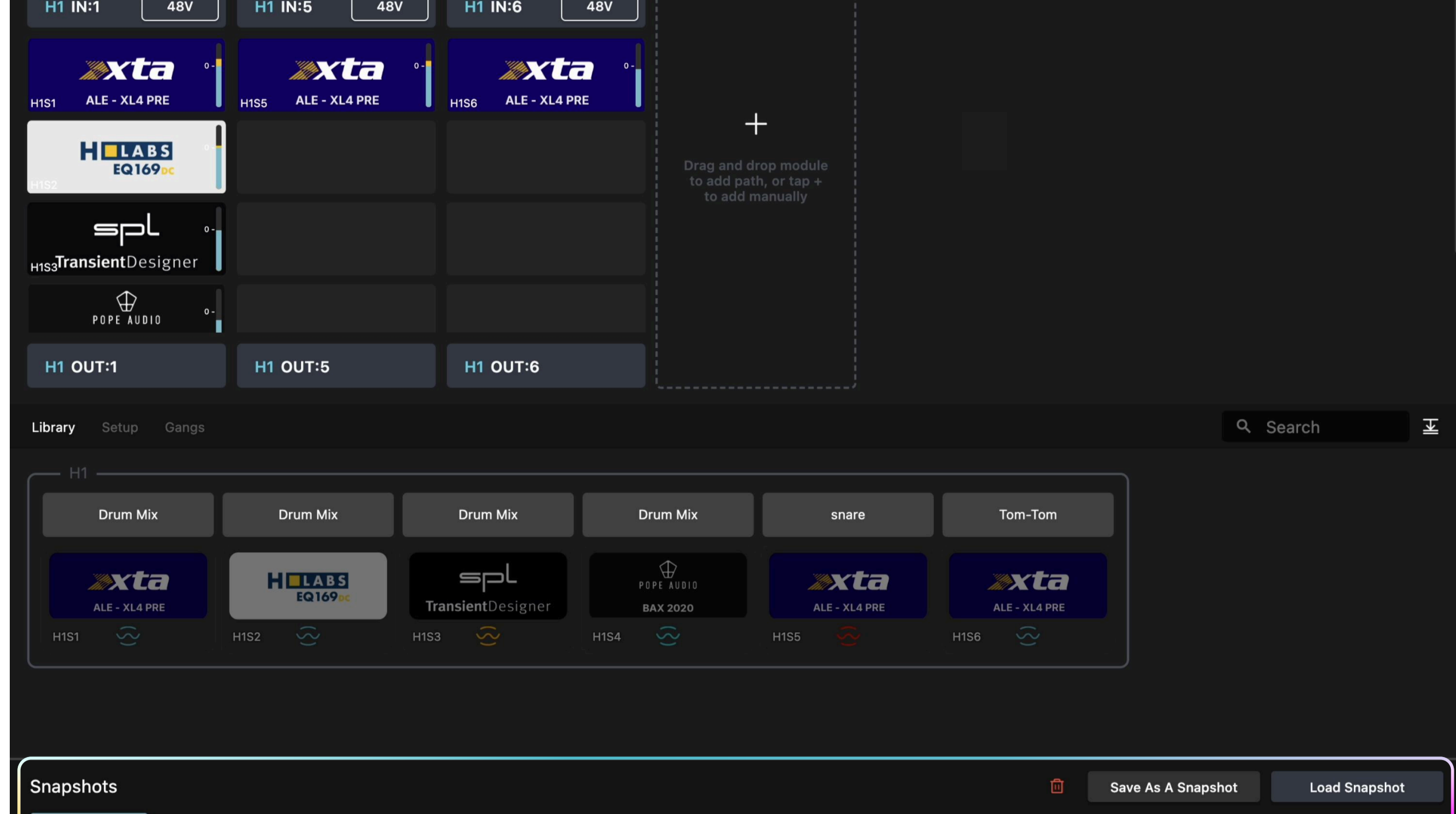
Load Snapshot を押すと既存スナップショットを読み込みます。

スナップショットは Library に同じモジュールが存在しないと動作しません。



ギャングの作成

Gang タブにて同一モジュールをリンクできます。



SEPIA はオーディオ伝送にクライアント/コントローラー/ネットワーク接続を必要とせず、設定変更時のみ必要です。システム再起動時、モジュール構成が同じであれば前回設定が復元されます。復元は起動完了後約 30 秒で行われます。